

教科・科目	対象学科 ・学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・ 音楽Ⅰ	普通科(体育コース) 工業科、商業科 1学年	2	MOUSA1 (教育芸術社)	Music Navigation (音楽史・楽典・ノート)
科目の概要 と目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
学期	題材	学習内容・教材	到達度目標	
1	楽譜の仕組み(1)  (筆記試験)	・音名(日本語・ドイツ語) ・ト音記号、ヘ音記号の読譜 ・音程	・ト音、ヘ音記号の楽譜を読むことができる。 ・記譜上の決まりを理解し、表現活動に活用することができる。	
	ボディ・パーカッションに挑戦  (発表による試験)	・リズム譜の創作 ・足踏み、手拍子によるアンサンブル「Plymouth Rock」	・音符の名称と長さ、拍子の仕組みについて理解しリズム譜を創作することができる。 ・各パートと全体のリズムに気をつけてアンサンブル活動に取り組むことができる。	
	西洋音楽の鑑賞	・組曲「動物の謝肉祭」 交響曲第9番「合唱付き」 バレエ音楽「ボレロ」 モーツァルトの作品 他	・作曲者の特徴と文化的・歴史的背景に関心を持ち主体的に取り組むことができる。 ・楽曲を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、表現上の効果との関わりを感じ取ることができる。	
	リコーダアンサンブル  (発表による試験)	・基本奏法の理解、独奏、重奏 「見上げてごらん夜の星を」 「Caffe」 他	・構え方、運指、タンギング、呼吸法を理解し、正しい奏法を習得することができる。 ・楽曲の構成やアーティキュレーションの役割を理解し、表現するための技能を身に付けている。	
	世界の諸民族の音楽と民謡	・日本および世界の民謡 「江差追分」「八木節」 「京畿道アリラン」 「ホルディリディア」	・世界の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解することができる。 ・民謡における声の特徴と表現上の効果に関心を持ち、主体的に鑑賞することができる。	
2	楽譜の仕組み(2)  (筆記試験)	・音階の理解 ・コードネームの理解 ・単旋律の創作	・音階のしくみを理解し、判別することができる。 ・和音の構造を理解し、コードネームの種類を答えることができる。 ・音階を選んで、旋律を創作することができる。	
	正しい発声を身に付けよう  (実技試験)	・発声の基本 ・「Ave Maria」「翼をください」 「少年時代」「夏の思い出」 他	・積極的に歌唱活動に取り組み、歌曲がもつ曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせてイメージをもって表現を工夫することができる。	
	合唱に親しもう	・混声合唱の発表 ・「花」「故郷」 他 ・合唱曲の鑑賞「願い」 他	・合唱に関心を持ち、声部の役割を理解して全体の響きに調和させることができる。 ・曲想を歌詞の内容とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌唱表現を工夫することができる。	
	和楽器に親しもう	・和楽器の演奏 ・箏曲「みだれ(乱輪舌)」 尺八曲「鹿の遠音」	・和楽器に関心を持ち、基本的な奏法を身に付けて主体的に取り組もうとしている。 ・和楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取ることができる。	
	劇音楽の世界	・劇音楽作品の歌唱、鑑賞 オペラ「フィガロの結婚」 「カルメン」 ミュージカル「キャッツ」	・劇や物語と音楽の関わりに関心を持ち、意欲的に歌唱、鑑賞活動に取り組むことができる。 ・物語をあらかじめ知り、人物の心情や場面を歌声や音楽がどのように表現しているかを味わう。	
3	ヨーロッパの歌曲を歌おう  (実技試験)	・原語による歌唱、鑑賞 「Caro mio ben」「我が太陽」 「野ばら」 他	・芸術的な音楽表現のための発声や原語の特徴を理解し、歌唱表現を工夫することができる。 ・音楽を形づくっている要素を知覚し、楽曲の特質や雰囲気を味わって鑑賞することができる。	
	ヴァイオリンに挑戦  (実技試験)	・基本奏法の理解 「きらきら星変奏曲」 「ちょうちょう」 ・ヴァイオリン曲の鑑賞	・楽器の構造や音色の特徴を理解し、興味を持って取り組むことができる。 ・姿勢、構え方、弓の持ち方、ボウイングを理解し正しい奏法で演奏することができる。	
	サンバやジャズに親しもう	・器楽「Brazil」 ・鑑賞「枯葉」 他	・パートの役割や全体のハーモニーを意識することができる。文化的・歴史的背景や演奏者による表現の特徴を理解し、そのよさや美しさを味わう。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・美術 I	普通科・工業科・商業科・1学年	2	高校生の美術 1 <日本文教出版株式会社>	
科目の概要と目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
学期	題材	学習内容	到達度目標	
1	○鑑賞 オリエンテーション	○教科書の作品を参考に、美術1の各分野の内容を確認する。	○多様な表現に興味を持ち美術に対する関心を高め、表現活動への意欲を持つことができる。	
	○表現 絵画（油彩画） 「卓上の静物」  ○鑑賞	○静物を描いた油絵作品を鑑賞する。 ○油絵の具の使い方を理解する。 ○自分でモチーフを選び、構図を検討し、自分らしさを表現する。  ○友達のを鑑賞する。	○セザンヌやモランディの作品を参考に、静物をどう効果的に配置しているか、その方法を学ぶことができる。 ○画面の中のバランスを考えてモチーフを配置し、構図をよく検討することができる。 ○モチーフをよく観察して、形をとらえ、質感・立体感・遠近感・空間の表現を意識することができる。 ○絵の具の特性を知り、塗り重ねのよさと楽しさを理解することができる。  ○他の生徒作品を鑑賞することで、多様な表現や面白さに気づき、見方を深めることができる。	
2	○表現 デザイン 「カラーージュによる平面構成」	○喜怒哀楽のイメージをカラーージュで表現する。	○材料となる印刷物の内容や色、形を組み合わせることによって感情のイメージを表現することができる。 ○イメージが見る人に伝わるということ意識しながら創作することができる。	
	○表現 立体造形 「ポップアップカード」  ○鑑賞	○開くとメッセージが飛び出す仕掛けのカードを作る。  ○友達のを鑑賞する。	○紙の特性を理解し、切り方や折り方、貼り方を工夫して立体を作ることができる。 ○アイデアを生かして、楽しいカードを作ることができる。  ○アイデアや工夫点に着目し、作品の魅力や面白さに気づき批評することができる。	
3	○表現 デザイン（版で表す） 「日本(和)」の模様」	○銅板を針(ニードル)で削り、繰り返し模様を作る。	○日本の模様について種類や特徴を図書やインターネットで調べ、美しい模様は何らかの秩序に基づくことに気付くことができる。	
	○鑑賞	○美術館の役割について	○版による表現の特性を理解し、リピテーション（繰り返し）の効果を生かして、生活を彩る美しい模様をデザインすることができる。 ○美術館の特色を知り、社会や文化に対して果たしている役割を理解することができる。 ○美術館の面白さ・楽しみ方を理解することができる。 ○美術館の役割や楽しみ方をレポートにまとめて、説得力のある発表することができる。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・書道 I	普通科 工業科 商業科 1 学年	2	書 I (光村図書)	
科目の概要と目標	多くの古典や古筆に触れ、書の美の追求を図り感性を高める。書道の幅広い活動を通して、書の基礎的な能力を生かし自ら表現する能力を伸ばすとともに、書の効用や書の伝統と文化についての理解を深める。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	書へのいざない	書写から書道へ 書体の変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>書写と書道の相違点と関連性を理解し、書の実用性と芸術性を知ることができる。</li> <li>現代までの漢字の姿の推移と書体の特徴を学び、字の成り立ちを理解することができる。</li> </ul>	
	漢字の書	楷書 「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」 「牛橛造像記」 「鄭義下碑」	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の書美と表現技法に関心をもつことができる。</li> <li>さまざまな楷書古典の臨書学習により、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を習得することができる。</li> <li>古典の比較・鑑賞し書風の違いを捉え忠実に臨書することができる。</li> <li>初唐の三大家と太宗の関係について知ることができる。</li> </ul>	
2		行書 「蘭亭序」 「風信帖」  隸書 「曹全碑」 篆書 「泰山刻石」  篆刻	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書の特徴について理解することができる。</li> <li>代表的な行書の古典の鑑賞、臨書学習により各古典の特徴を把握し行書の用筆法を習得することができる。</li> <li>身の回りにある隸書に気づき、その効果について考え隸書の特徴を理解し、隸書の表現に親しむ。</li> <li>篆書の特徴を知り、篆書の表現に親しむことができる。</li> <li>印と篆刻について知り、名前の印の刻し方を理解し自分の姓名印を完成することができる。</li> </ul>	
	仮名の書	仮名の成立と種類 古筆に見る仮名の表現方法 「蓬萊切」 「高野切第三種」	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら表現したい語句を選び古典臨書を生かし漢字作品を創作することができる。</li> <li>仮名の成立と変遷・種類について理解することができる。</li> <li>仮名の用具・用材と姿勢や執筆法を理解し基本用筆を習得することができる。</li> <li>仮名の書の特質を平安時代の古筆の表現に学ぶことができる。</li> </ul>	
3		構成を学ぶ 「寸松庵色紙」 「升色紙」	<ul style="list-style-type: none"> <li>散らし書きのポイントをおさえ、さまざまな構成方法を習得することができる。</li> </ul>	
	漢字仮名交じりの書	イメージを文字で表現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字と仮名の調和した表現について理解し自由に表現する喜びを味わうことができる。</li> <li>余白や文字の大小を工夫して自分なりの構成を作ることができる。</li> <li>自らの思考や感動を表現できる語句を選び漢字と仮名の調和を図りながら、意図やねらいに合う古典を参考とし作品を創作することができる。</li> </ul>	
	生活の書		<ul style="list-style-type: none"> <li>カレンダー制作や封筒の書式・履歴書の作成などの活動を通し、暮らしに生かせる書を学ぶことができる。</li> </ul>	